



シリーズ「アジアほっつき歩る記」第40回

日本 伊良部架橋にみる沖縄の今

すが つとむ
須賀 努

コラムニスト・アジアウオッチャー

昔は東京から沖縄へ行くというと、飛行機代が高く、敷居が高かったものだが、今では格安航空会社LCCが登場し、昨年、一昨年は片道6000円弱で成田-那覇を飛んだ。日本国内の旅は大きく変わってきている。そして昨年偶然訪れた宮古諸島の伊良部島。宮古島からフェリーで行ったのだが、今年1月に宮古-伊良部に橋が架かったということで、その変化を見るために再度訪問してみた。

那覇空港で入国する99%は外国人

今年は東京からではなく、上海から那覇へ入ってみた。到着して驚いたことは、入国審査のゲートに「日本人」の表示が見当たらない。何とか一番端のゲートへ行くと筆者を見た係官が慌ててゲートを開けて、入国手続きをしてくれた。聞けば、「那覇空港から入国する99%は外国人ですから」というではないか。預け荷物の受け取り場でも係官から中国語で話し掛けられ、「日本人だ」と日本語で言うと驚かれた。

中国系航空会社を利用したこともあるだろうが、殆どが外国人というのはどういうことなのだろうか。外国人観光客誘致に成功していると言えるが、沖縄県民の海外渡航は意外に少ないということだろう。沖縄には米軍基地があるので、外国人慣れていると思いついていたが、実はそんなこともない。内地と同様、「中国人と台湾人、香港人の区別がつかない」ようだ。友人は「沖縄でレンタカーを借りる中国人が多く、その運転、駐車などのマナーが非常に悪い」と言っていたが、タクシー運転手に聞く

と「中国人はここでは運転できない」ルールのように、マナーが悪いと思われたのは、どうやら運転免許は持っているが、普段あまり運転する機会のない香港人らしい。

ホテルより民泊

4月初め、日本では学校が始まり、観光シーズンが一段落した頃、友人が沖縄本島のホテルを予約しようとしたところ、どこも満員で困ったという。具体的な日にちを聞いたところ、それは中国や台湾では清明節の3連休だった。今や国内旅行は外国人の動向、そして中国などの休日を考慮しなければならない時代となった。東京ではその時期には桜を見にくる外国人でごった返していたのと呼応する。

沖縄のホテルは通年外国人狙いへと切り替わり、日本人観光客から離れ始めている。また内地から来る修学旅行生などの宿はホテルから民宿に変わっているとの話もあった。料金的にも安く、現地での様々な体験が組み込まれ、かつ引率の先生の負担が少ない、というのが理由らしい。前々回の四国でも感じたが、これからは旅の多様化に合わせて、宿泊先も多様化する必要がある。旅人の満足度を上げるためには、地元との交流、体験が重要であり、その意味でも民宿には注目すべきである。

橋の架かった宮古島と伊良部島

那覇から飛行機で30分。宮古島は平坦な島であり、宮古トライアスロンが毎年開催されている。今年は昨年までと異なり、その自転車レースが伊良部



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



島でも行われた。今年の1月末、ついに宮古と伊良部が橋で繋がったことにより実現した。この橋は地元民の悲願、と報じられたが、実態はどのようなのだろうか。橋が架かればよいことが増えるということなのか、検証してみた。

宮古の空港からバスに乗り、去年はフェリーに乗った港で伊良部行のバスを待った。フェリーは既に廃止され、乗り場はひっそりとしていた。伊良部側の港はもっと寂れており、売店の売り上げは5分の1に激減したそうだ。バスに乗る人も少ない。

橋の開通で便利になったことは間違いないが、伊良部島側に深刻な影響も出始めている。伊良部島の島民は酒が強いことでも有名だが、皆が地元で飲まず、宮古に行って飲むようになったという。レストランも同様に、以前は島内で食べるしかなかったが、今では車で宮古へ行く。我々が訪ねた島の有名なレストランは以前は予約が取れないと言われたが、今回は簡単に入ることができた。当然買い物も便利な宮古行きとなり、地元の商店の経営は厳しい。

島の小中学校も統合されるという。これは元々少子化で仕方がないことだろうが、地元の高校へ進学する生徒は益々減っていて、橋ができればバスで宮古へ通学が容易となり、その傾向に一層拍車がかかるという。高校存亡の危機が、イコール伊良部島の将来だ、という島民の声を聞いた。

潤っている



写真1 伊良部と宮古に架かった橋

のはタクシー会社ぐらいらしい。宮古、伊良部双方のタクシー需要は増加している。今回伊良部で泊まった

ゲストハウスも昨年までは宮古からタクシーで行くことなどできなかったが、今年は何人もの泊り客がタクシーで行き来していた。

不動産価格も上昇しているという。確かに橋が架かれば便利になり、価値が高まるということだが、将来の人口流出リスクを考えると一過性の可能性もある。島が便利になったので、内地から故郷に戻ってくる人々もいると聞くので、人口が減少すると決まっている訳ではないのだが、島の発展に橋が寄与しているのかは、疑問である。

少なくとも観光に関しては良い影響が見込めると思っていたが、従来はフェリーで来て島に1泊した人々が、現在は簡単に日帰りできるため、観光収入が増えた、という話は聞かれなかった。「観光客はゴミを落としていだけ」とつぶやいた島の老人の言葉が突き刺さる。青い海、きれいな自然の砂浜が魅力だった伊良部島の自然体系が少しずつ破壊されていくことを懸念する人々もいた。

橋が架かり確かに便利になった伊良部島だが、失ったものはそれ以上に大きかった、ということだろうか。沖縄の問題は基地だけではなく、島の開発などにも注意するべきだ。



写真2 伊良部島 浜の夕日